



小樽南ロータリークラブ会報

1960年創立
昭和35年2月5日

12

2021年11月19日発行
通巻 第2956号

Rotary 2021-2022年度19テーマ

2021-2022年度 RI第2510地区目標

- 世界に奉仕を 地域には感謝を
- 不忘感謝先人偉業

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

今週11月19日金のプログラム

- 卓話：小林会員

来週11月26日金のプログラム

- 休会

再来週12月3日金のプログラム

- 臨時総会

●例会場/オーセントホテル小樽 ●例会日/毎週金曜日12時30分 ●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂2-15-1(オーセントホテル内) TEL.0134-27-8080 ●Club Homepage URL <http://rid2510.org/otarusouth/>

●第11回例会報告(11月5日金) ●夜間例会 卓話：ロータリー財団委員長 京谷会員

■ロータリーソング【それこそロータリー】
■会長挨拶【野村会長】

本日は今期当初からお伝えしておりました、初めての夜間例会にさせていただきました。今月11月はロータリー財団月間ということで、京谷財団委員長に卓話をお願いいたしました。

ご承知のとおり、財団は毎年400億円に及ぶ資金を基にポリオを中心として、きれいな水の提供や発展途上国への教育支援等々、慈善活動に充てられております。又、一部は地区補助金として、申請により各クラブに還元され事業に使用されています。因みに当クラブは昨年、優秀高校生表彰式費用の補助として11万円を頂いております。

日本のロータリー独自の米山奨学とともに財団はロータリーにとって大きな柱と存じます。是非とも財団の方へもご理解ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

■幹事報告

- 例会終了後、役員理事会を開催します。
- 今後の例会等はメールにてPDF、もしくはワードで送

- りますが、不明な方は連絡をください。
- 11月23日 小樽RC休会の案内が来ています。
- 本日夜間例会のため、まごころ箱は次週に報告します。

■結婚祝【11月に結婚記念日を迎える会員】

- 11/ 4 佐藤(公)
- /17 紺谷
- /21 見延
- /22 井手



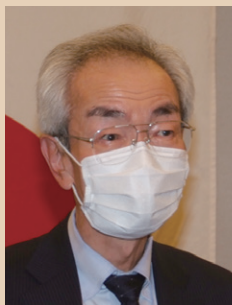
■出席委員会

令和3年11月12日(金)

会員総数 61名 本日の欠席者 0名
理事会決定により100%出席
リモート出席者 5名
見延、菊池、米山、山下、高木



ロータリー財団について



ロータリー財団委員会
委員長 京谷 篤

会員の皆様はご存知のことと思いますが、今一度財団について確認したいと思います。

1 ロータリー財団の歴史

(1)財団創設

・1917年、国際ロータリーの6人目の会長アーチクラフ氏が、アトランタ国際大会で、「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他社会奉仕の分野で何か良いことをしようではないか」と提案。

・1928年の国際大会でロータリー財団と名付けられた。

(2)財団の成長

①ロータリー創始者のポール・ハリス氏の逝去

・1947年に1月に、ロータリー創始者のポールハリス氏がシカゴで亡くなり、寄付が国際ロータリーに相次いで寄せられ、財団は、ポール・ハリス記念基金を設置。

・この年に財団最初のプログラム、高等研究奨学金が実現し、その後、ロータリー国際親善奨学金、未来の夢計画の奨学金へと発展。

②ポール・ハリス・フェローの認証を開始

・更に、1957年に、財団は、財団の活動に人々への感謝を示す手段として、ポール・ハリスフェローの認証を始めた。

③保健、飢餓追放及び人間性尊重プログラム (Health,Hunger and Humanity) いわゆる3H開発のための75周年基金 (1979-1980) の設置

・プログラムの目的は、国際間の理解、親善及び平和を促進するための方法として、「人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的、社会的な向上発展を図る。」というもの。

④プログラムの発展

・このプログラムからポリオやロータリーボランティアのプログラムが誕生

・2002年には、世界7か所8大学をパートナー大学に指定し世界平和奨学金 (現在のロータリー平和フェローシップ) を発足。

⑤2008年6月の理事会で、ロータリー財団の「未来の夢計画」を承認

・以後、2010年に世界100地区 (パイロット地区) で、この計画がスタート2013年から世界中で展開。

2 財団の補助金

・未来の夢計画のもと補助金制度の充実が図られ現在に至っている。

・補助金は大きく以下の3種類

(1)地区補助金

・一括で地区に支払われ、地元や海外のニーズのために使用できる補助金。

・地区は、毎年、財団の使命を支える地区やクラブの活動を支えるために、使用可能な地区財団活動資金の50%までを地区補助金として申請が可能。

(2)グローバル補助金

・戦略的に大きな影響をもたらす地区やクラブの活動に使える補助金…
・大規模で国際的な人道プロジェクトに活用でき、財団の重点分野のいずれかにおいて、持続可能かつ測定可能な成果をもたらすことが求められている。

(3)災害救援補助金

・過去6ヶ月間に自然災害により被災した地域における救援及び復興活動を支援する。

3 財団の使命、重点分野

(1)使命

・ロータリアンが人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること。

(2)重点分野

- ①平和の推進
- ②疾病予防と治療
- ③水と衛生の改善
- ④母子の健康
- ⑤教育の支援
- ⑥地域経済の発展
- ⑦環境 (新分野)

4 財団への寄付

・寄付は大きく以下の3種類

(1)年次基金

・年次基金への寄付は寄付の基盤であり、この寄付は使い道を指定すること

なく財団に寄付するもので、3年後に全額使われる。

・この寄付は、管理運営のために5%が差し引かれた後、シェアシステムに基づき続き、50%が国際財団活動資金 (WF) に、あとの50%が地区財団活動資金 (DDF) として地区の裁量の下に使用される。

①国際財団活動資金 (WF)

・ロータリー財団が管理し、全ロータリー地区が申請できる補助金やプログラムの資金として活用される。

②地区財団活動資金 (DDF)

・地区は3年後にこのDDFをクラブや地区、又は財団のプロジェクトのために活用できる。

・このDDFの半分までを地区補助金として使用でき、残りをグローバル補助の申請、ポリオプラスやロータリー平和センターの支援などに使うことができる。

(2)恒久基金

・将来の新プログラム又は現状のプログラムの拡張を容易にするために寄付金は使用せず基金として積み立ておくこととしている。

(3)ポリオプラス基金・その他指定プロジェクト基金

・あらかじめ使い道を決めて金額は問わず、財団のプログラムを指定して寄

付するもので、ポリオプラスがその代表的な例。

5 寄付の認証

・代表的なものは以下の通り。

(1)ポール・ハリス・フェロー

・年次基金、ポリオプラス基金等に1,000ドル (1,000ポイント) 以上を寄付した方にこの称号が贈られる。

(2)マルチプル・ポールハリスフェロー

・ポール・ハリス・フェローを贈られた方が、追加で1,000ドル (1,000ポイント) 以上寄付するごとにこの称号が贈られる。

(3)ポール・ハリス・ソサエティー・メンバー

・毎年合計1,000ドル以上を年次基金、ポリオプラス基金などに寄付する方。

6 認証ポイントの活用

(1)活用方法

①個人、若しくはクラブで年次基金やポリオプラスに寄付をした場合、直ちに認証ポイントがつく。

・1ポイントは1ドル

②この認証ポイントは、認証ポイントを持っている方は、自分では使えないが、他の人に移譲することができる。

③また、クラブの認証ポイントも、個人同様、クラブのメンバー移譲することができる。

④移譲された方は、このもらった認証ポイントと自らの現金寄付と合わせて、その数値が1,000ポイントに達するとポール・ハリス・フェローになることができる。

※当クラブの現時点の認証ポイントはクラブと個人合わせて25,789ポイント。

(2)当クラブにおける認証ポイント活用

・個人の寄付額が2万円、3万円、5万円に会員やクラブからのポイントを加算し、合計で1,000ポイント以上にして、P.H.Fの認証を受けている。

7 当クラブの今後の取り組み

①寄付への理解

②寄付実績ゼロ会員・認証ゼロ会員の解消

③寄付に対する負担感の軽減 (単年度の他、複数年度で寄付を頂き、認証)

④認証ポイントの有効活用

⑤前回寄付から年数が経過した会員への寄付依頼